

心臓・大動脈手術の入院

皆さんは心臓や大動脈の手術と聞くとどれくらいの入院期間を想像されるでしょうか。1ヶ月でしょうか、はたまた2～3週間でしょうか。

心臓手術の歴史は比較的浅く、初めて人工心肺（心臓と肺の代わりをする機械）を用いて米国で手術が行われたのは1950年頃で、そこからまだ70年ほどしか経っていません。最初期の手術においては4人手術を行えば3人が亡くなるという悲惨な結果でしたが、なんとか心臓や大動脈を治療したいという人々の思いにより治療は急速な進歩を遂げ、現在では我が国の心臓・大動脈手術の死亡率は概ね数%以内と、比べものにならないほど安全になりました。手術法に関しては胸を開け心臓を止めて行ういわゆる開心術のみならず、体の負担が少ない血管内治療（カテーテル治療）などもここ10～20年で急速に発展しています。

しかし、進歩しているのは手術法のみではなく、手術を行う至適タイミングや手術に伴う体の変化、周術期の管理などについても研究が進んでいます。最近では手術侵襲の軽減や早期離床・退院を促す ERAS (Enhanced Recovery After Surgery: 術後回復強化プログラム) という概念が導入され、心臓・大動脈分野でもここ5年ほどで注目されてきました。具体的には手術前からのリハビリや栄養管理の開始、様々なりスク因子や不安などの評価、社会経済的要素の調整、手術前後の食事摂取の継続、術当日の人工呼吸器離脱や早期リハビリ、退院後のリハビリ・食事管理継続などが含まれます。これらは身体的な回復を促すのみならず、手術への安心感や社会復帰へのスムーズな移行にも寄与すると言われています。当院でも ERAS に則ったプログラムを導入し、開胸手術を受けられた方も術後1週間前後で退院したり、カテーテル治療による大動脈手術では術後2泊3日で退院する患者さんが増えてきました。

さらに竹田総合病院では、遠方に在住の患者さんへ電話やタブレット端末でフォローをしたり、退院直後から在宅看護を導入したり、自治体と協力して各地域で心臓血管リハビリを行うなど、大きな手術に対しても安心して手術を受けて頂けるような体制を整えています。また各クリニックや病院とも連携を取り、大きな手術の後は概ね5年程度定期検査を継続しています。

引用文献：I. Grant, M. C. et al. Perioperative Care in Cardiac Surgery: A Joint Consensus Statement by the Enhanced Recovery After Surgery (ERAS) Cardiac Society, ERAS International Society, and The Society of Thoracic Surgeons (STS). Ann. Thorac. Surg. (2024) doi:10.1016/j.athoracsur.2023.12.006.

～図書の紹介～

新刊図書の一部です



アルプス席の母
早見和真

菜々子は看護師をしながら息子の航太郎を育てていた。シニアリーグで活躍する航太郎には、関東一円からスカウトが来ていたが……。甲子園常連校を倒すことを夢見て苦悩する親子の物語。2025年本屋大賞2位。



カフネ
阿部暁子

最愛の弟が急死した。悲しみに暮れ荒んだ生活を送っていた薫子が、食を通して家事代行サービス「カフネ」と出会い、再生を果たしていく。2025年本屋大賞。



禁忌の子
山口未桜

救急医・武田の元に搬送されてきた一体の溺死体。その身元不明の遺体は、なんと武田と瓜二つ。彼はなぜ死んだのか、そして自身との関係は…。鮎川賞受賞。



ORGAN ROOMS
カラダワンダーランド
五十嵐隆

子どもが体の仕組みに興味を持ち、正しい知識で自身の健康を守る力を高めることを目指します。



図解 がんとお金
黒田ちはる

「お金の問題」と向き合うのは決して簡単ではありません。医療と暮らしに寄り添った支援を行うファイナンシャル・プランナーがお役に立ちます。



人は背中から老いていく
野尻英俊

「たかが背中の丸まり」と軽く考えていませんか？ 放っておくと死亡率が約2倍に跳ね上がります。背中の丸まりの予防・改善策をお伝えします。

お 勧 め の 一 冊

もう作り笑いなんて必要ない！ みんなのネガティブ感情のおてあて

日常生活において「作り笑いをするのに疲れた」「相手の機嫌を損ねないようにお世辞を言うのがつらい」と感じることはありませんか？ 自分の感情をコントロールしてポジティブに振る舞った結果、悲しみや怒り、不安などのネガティブな感情を抑え込んでしまい、心が苦しくなってしまうことがある方もいらっしゃると思います。この本はそんな感情と向き合い、優しく癒すための「おてあて」について紹介した1冊になります。

精神科医の著者が各テーマごとに、自分の感情を守り、気持ちをすり減らさないための考え方についてケーススタディで読みやすく書かれています。

疲れた感情をほぐすヒントがたくさんあり、頑張りすぎてしまうあなたに「そのままで大丈夫」と思わせてくれるような内容になっており、読んだ後に心が楽になります。最近心が疲れてきたなと感じる際はぜひ読んでみてはいかがでしょうか。



(栄養科 村岡真綾)

【お知らせ】

秋が深まり、朝夕の寒さが強まって来ました。あまりの寒さに冬支度が進んでいることと思います。日々テレビを観ていると、熊出没の話題でもちきりで、今年は東京都内にまで出没しています。猛暑で山の木の実が少ないため、柿や人間が廃棄した生ごみ等を求めて人里に降りて来るようです。熊対策のグッズが品切れになっているところもあるとか……。安心して散歩もできなくなりました。

先日の竹田総合病院のフォーラムにおいて「シニア世代を元気に生き抜こう！～高齢者の心身の健康を考える～」と題して講演会やシンポジウムが開催されました。紺野美沙子さんの特別講演においては、日常特別なことをするのではなく、趣味を取り入れたり、ストレッチをしたり、推し活をするなどできることから始めましょうとのことでした。これから益々寒くなりますが身体を動かしていきいきと元気に過ごしましょう。 がん相談支援センター 古沢